

—元気で活力に満ちた学生のサポートプログラム—

サギタリウス・チャレンジ 『日本語・英語スピーチコンテスト』

スピーチマニュアル

国際交流センター事務室

2012. 4

スピーチについて

A. スピーチとは。。。自分の言いたいことを、論理的に分りやすく聴衆に訴えかけるもの

B. スピーチの作り方

1. トピック(論題)を選ぶ (まずはスピーチのトピックを選びましょう。)

選定のポイントは。。。。

- a) 自分が心から言いたいこと
- b) 他人の興味・関心をひくもの
- c) 自分と聴衆が共通して興味・関心を持てるもの
- d) 重要性のあるもの
- e) 時事的(Timely)なもの
- f) 制限時間内に言い切れるもの

2. 情報収集する (トピックを選定できたら、そのトピックについて情報を集めましょう。)

* 新聞、雑誌、書籍、インターネット、取材などの方法を使って情報を集める。

収集の目的は。。。。

- a) 聴衆を説得するためにも知識を深める。
- b) 統計などを使って客観性を持たせる。

収集のポイントは。。。。

- a) 信頼性の高いデータ(新しいもの、専門家などが発信しているものなど)。
- b) 自分の意見への賛成意見、反対意見ともに収集し、客観性をもつ。

3. 自由討議する。。。Brain Storming (情報が集まったら構想を練りましょう。)

- a) トピックについて思うことを全て書き出す。
- b) 調査したことを全て書き出す。
- c) 書き出したものから自分の一番言いたいことを選ぶ。

4. 骨組みを作る (構想が練れたら、骨組みを作りましょう。)

スピーチを内容で分類すると、大きく二つに分けられます。

- ① Social Speech … 社会的な事象をテーマにしたもの。戦争、政治問題、環境問題など。
- ② Value Speech … 個人的な事象をテーマにしたもの。価値観の問題など。

この二つのスピーチを聴衆に分かりやすく伝える二つの方法(展開)を紹介します。

4-1) Problem-Solving 型

現状に問題があるので、それを解決しようというもの。Social Speech によく用いられる。

< * 第33回ホノルル市長杯「女兒教育—希望の種」 >

Problem	-	現状の問題点	-	教育を受けられない女兒がいる
Harm	-	問題点から起こる悪影響	-	母から子への教育が伝承されない
Cause	-	問題の起こる原因	-	男女差別、貧困
Solution	-	問題点を解決する解決策	-	男女平等の認識、義務教育の無料化など

＜第44回外国人日本語弁論大会「私の決意―日中文化交流の架け橋となるために」＞

Problem	- 現状の問題点	- 誤った報道
Harm	- 問題点から起こる悪影響	- 異文化の誤解
Cause	- 問題の起こる原因	- 無責任なマスメディア
Solution	- 問題点を解決する解決策	- 留学生が文化交流の架け橋となろう

4-2) Comparative-Advantage 型

現状にはさして問題はないが、こうした方がもっとよくなるというもの。Value Speech によく用いられる。

＜第33回ホノルル市長杯「走り続けてわかったこと」＞

Example	- 個人的経験	- 祖父とのトレーニング
Analysis	- 経験の分析から利点、不利点を導く	- ごまかしても後でつけがくる
Generalization	- 上記分析の一般化	- 継続は力なり、努力なくして成果なし
Solution	- 利点を得る為の具体的な実行策を提案	- 教育とは先生と生徒の二人三脚 - 小さな努力の積み重ねが大きな成果を生む

＜第23回とやま外国人による日本語弁論大会「富山弁について」＞

Example	- 個人的経験	- 富山弁の難しさ
Analysis	- 経験の分析から利点、不利点を導く	- 方言による交流の広がり
Generalization	- 上記分析の一般化	- 標準語を勧める傾向
Solution	- 利点を得る為の具体的な実行策を提案	- 方言を大切にしよう

5. 肉付けをする（骨組みが完成したら肉付けしましょう。）

肉付けには「Introduction(導入)」「Body(主題)」「Conclusion(締め括り)」があります。

＜Introduction (導入)＞

聴衆の注意を引きつけ、最後までスピーチのとりこにするための最初の大切な導入部分です。

ポイント。。。会話、質問、引用、物語、たとえ話で始める、自分の体験を述べるなど工夫する。

＜Body(主題)＞

自分の主張、調べたデータをベースにして肉付けします。上記の展開法(Logic Chart)を参照してください。

ポイント。。。主観的な内容ばかりでなく、客観的な内容を取り入れることが大切です。また、自分のスピーチするトピックのネガティブな側面を話すことも現実味を出すうえで重要です。

＜Conclusion(締め括り)＞

これまで主張してきた内容を再度訴え、聴衆の心に余韻を残し、最終的に印象付ける大切な役割があります。

ポイント。。。 行動を促す、イントロに戻る、疑問文でしめる、言いたいことを再度主張する。

参考に。。。

【スピーチの構成の目安】

＜英語＞

スピーチの長さ	語数	構成上の配分	
1 分	120語	Introduction	20 語
		Body	80 語
		Conclusion	20 語
2分	240語	Introduction	35 語
		Body	170 語
		Conclusion	35 語
3分	360語	Introduction	50 語
		Body	260 語
		Conclusion	50 語
4分	480語	Introduction	70 語
		Body	340 語
		Conclusion	70 語
5分	600語	Introduction	80 語
		Body	440 語
		Conclusion	80 語

＜日本語＞

5分のスピーチ原稿の長さですが、ゆっくり話すと 800～1200 字程度となります。
ただし、ひらがなが多いか漢字が多いかでも長さが変わってきます。
一度原稿を読んで4分半から5分程度の長さになっているかどうか確認してください。

6. タイトルを決める

話し手と聴衆がはじめて出会うのがタイトル。タイトルで聴衆の興味を引きつけられるよう工夫しましょう。

ポイント。。。内容と合っているもの、興味を引くもの、スピーチの本文の中でつかわれているもの、テーマを間接的に暗示するもの、語呂がよく簡潔なもの、スピーチをきいた後でも、タイトルを見ただけで内容が浮かぶようなもの。

7. 発表する (Delivery)

頑張って作ったスピーチをいかに魅力的に発表するかは Delivery にかかっています。あなたの Delivery で聴衆の心をぐっと掴んで下さい。

＜Pause＞

ポーズは口ほどに物をいいます。マシンガンのようにひたすら話すのではなく、切るべきところは切りましょう。

ポイント。。。疑問文のあと、会話の前後、パラグラフの間、強調したい所の前後などで切る事。

参考に。。。

ポーズは、句、節、文などの切れ目ごとに一言い換えれば意味のまとまり(sense groups) ごとに一適当なポーズを置き、パラグラフとパラグラフの間にはたっぷり2 秒間ほどの間隔をあけて話すようにするとよいでしょう。コンマやピリオドにこだわらず、意味に直結した息の単位(breath groups)で語ることこそ、英語スピーチの本流です。次の記号を参考に、下記のサンプル(イソップ寓話)を音読練習してみましょう。速度の目安としては、1 分以内で読み終えた人は「速すぎ」、1 分 30 秒以上かかった人は「遅すぎ」です。

///・・・大休止(long pause)・・・・・・・2 秒
//・・・中休止(intermediate pause)・・・1 秒
/・・・小休止(short pause)・・・・・・・0.5 秒

【サンプル】

THE LION AND THE MOUSE

One day / a lion had a nap in a wood. / A tiny mouse was playing near / and ran over one of his paws. / This woke the lion. / He was angry and put his paw on the mouse. //

The mouse was terrified. / “Oh, lion,” / said she, / “please do not kill me. / Let me go. / Some time I will help you.” / The lion laughed and said, / “Can a mouse help a lion?” / But he let the mouse go. ///

One day / the lion fell into a trap. / It was made of strong ropes. / He struggled and struggled / but could not get out. / The mouse saw the lion in his trouble and said, / “Now I can help him. I will gnaw the ropes.” ///

So she gnawed and gnawed / until the ropes were cut. / How delighted the lion was! / How he laughed! / He said, “Even a mouse can help a lion” (151 words)

<Voice Control>

大きく、元気に、はっきりと。小さな声ではせっかく作ったスピーチが聴衆に届きません。皆に聞こえる様に、大きな声でハキハキ話しましょう。声の強弱をつけることも忘れないで。

ポイント。。聞かせどころはゆっくりと大きな声で、会話文では地の文と声のトーンを変えて。

参考に。。。

● 発 声 ●

- ☐ 発 音 — 個々の発音は正確か。強弱のアクセントは守られているか。
- ☐ 口 調 — 声に肯定のバラエティがあるか。自分の不得意な言葉を発音するとき、自分の口元や顔が自然にゆがまないか。
- ☐ 抑 揚 — 下がるべき抑揚が尻上がりにないか。センテンスの最後の言葉が急に弱くなったり、下がったりしていないか。
- ☐ なめらかさ — 熟語や成句などを一語一語切り離して発音していないか。人に直された箇所だけが不自然な強さや高さを持っていないか。
- ☐ 発 声 法 — 声を呑み込まないで、お腹の底からだしているか。会場の後ろの聴衆にも声が届くか。

<Action>

＊Eye Contact …「目は口ほどに物を言う」

誠意を伝えるには目で語ること。聴衆全体を見回しながら視線を合せて語り掛けることが大切。

＊Body Action …「体も口ほどに物を言う」

目で語ると同時に、体で語りかけることも大切です。体から溢れ出る誠意はスピーチをより印象付けます。

<Manner>

Call されてからスピーチを終えて着席するまで、あなたは注目の的です。話し手として恥ずかしくないマナーを心がけてください。

参考に。。

● 態 度 ●

- ☐ 姿 勢 — 胸を張り、両足を軽く開いて話をしているか。
- ☐ 視 線 — 下を見たり、1か所だけ見つめないで、聴衆の左右真ん中辺りに徐々に視線をうつしているか。(これは、聴衆の人数に関係なし)
- ☐ 身振り手振り — 本当に自分が使いたいジェスチャーだけを使っているか。(少しでも不自然だと思ったり、人から注意されたものは一切避けること)
- ☐ 自 然 さ — スピーチを誰かに指導してもらった場合、その人の癖をそのまま受けついでいないか。特にその人が異性の場合や年齢に差がある場合、自分の表情や態度に自分らしくないものが出ていないか。

最後に。。

スピーチは自分の考えを主張するものですが、聞き手に自分の主張を理解してもらうことが大切です。「どうすれば自分の意見が聴衆に分かりやすく伝わるか」を考えてスピーチを作りましょう。作り始めて、行き詰ったら誰かに話して見て下さい。意見交換してみると、新たな発見があったり、頭の中の混乱が整理できたりするものです。皆さんのチャレンジが成功するよう、スタッフ一同応援しています。

<相談窓口>

国際交流センター事務室(12号館北1階)

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 京都産業大学

Tel: 075-705-1455 Fax: 075-705-1456 E-mail: cip@star.kyoto-su.ac.jp

平日 8:45～16:30 (昼休み 13:00～14:00)

土曜日 8:45～12:00